

eシフト・シンポジウム

原発は温暖化対策の答えではない

2014年7月31日

東北大学

明日香壽川

asuka@cneas.tohoku.ac.jp

内容

1. 温暖化対策とは？
2. 原発と温暖化のねじれた関係
3. 脱原発と脱温暖化と経済の鼎立
4. 今後に向けて

1.温暖化対策とは？

主にCO₂排出を減らすこと

- 省エネ
- 再生可能エネルギー
- 原子力
- 森林整備

→これらは温暖化問題がなくてもやってる

温暖化対策のために温暖化 対策をやっている国はない

- それが現実
- 温暖化対策予算も、予算の中で温暖化対策とも読めるものをかき集めただけ
- 日本は原子力関連が多かった

なぜ温暖化対策は進まないのか？

- エネルギー・システムの転換が必要であり、既得権益側が莫大なリソースをかけて抵抗するから
- 「不公平」という言説が戦略的に使われるから
- 「黄金律」を無視する人が多いから

公平性とは？

「立場入れ換え可能性の確保（社会のどこに生まれても自分は耐えられるか？）」（ロールズ）

→黄金律

黄金律：己所不欲、勿施於人

- すべての宗教に存在する古今東西・万国共通の教義
- 要は「自分がやられて嫌な事を相手にやってはいけない」
- すべての公平性に関する議論はこれに行きつく

2. 原発と温暖化のねじれた関係

原発は温暖化対策のため？

- 政府、経団連、それらに親和性が高い研究者、一部メディアなどの既得権益側がそう強く言ってきたのは確か
- 多くの研究者が沈黙していたのも確か
- しかし多くのNGOは前から反対を表明

「原発依存・化石燃料依存」 グループの高等(?)戦略

温暖化なんて本当は気にしていな
いののに「原発は温暖化対策のため」
とのたまう

→温暖化に懐疑的な人たちを増やして
化石燃料依存に向かわせる

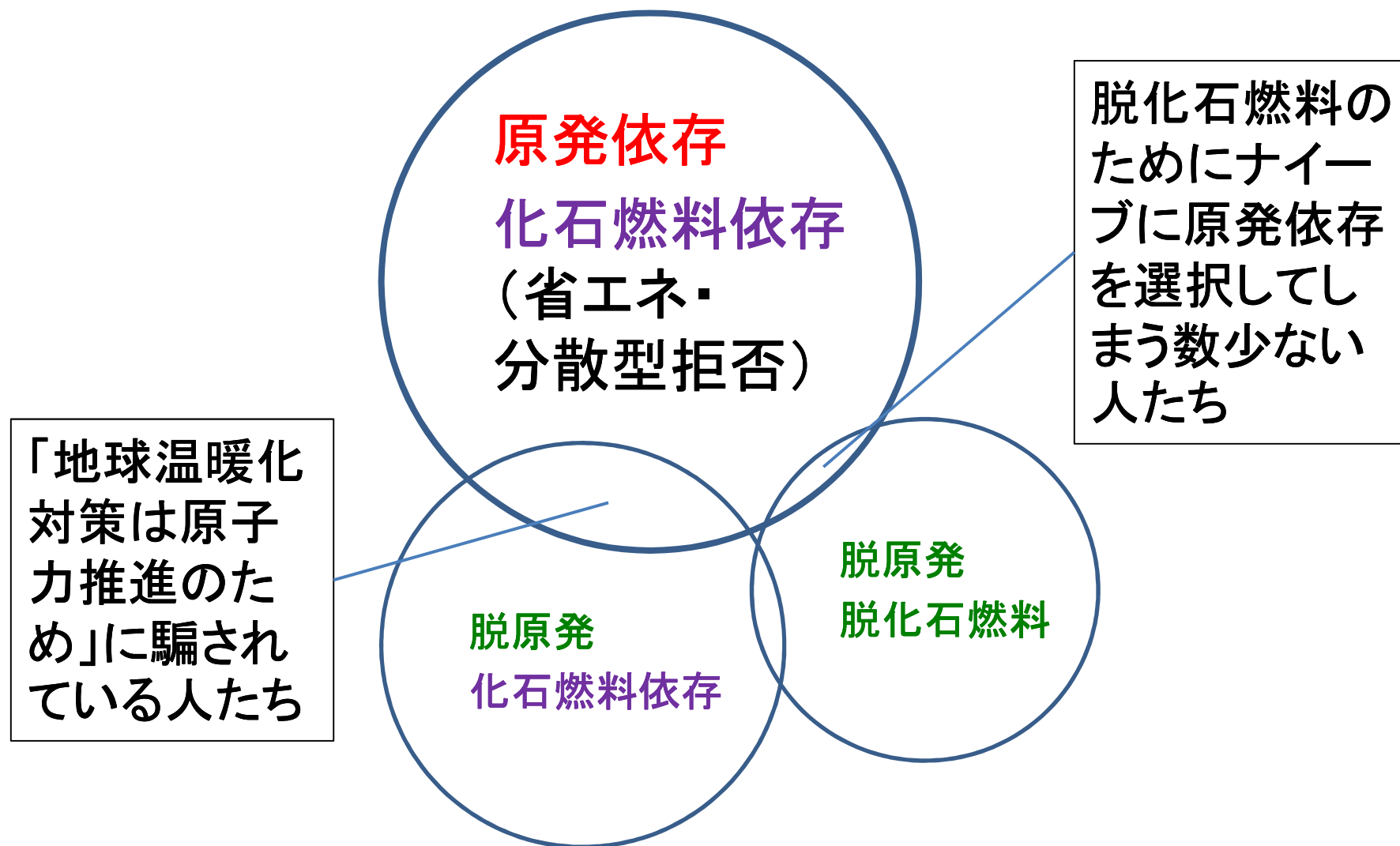
「原発依存・化石燃料依存」 グループが恐れるのは

- 省エネや分散型エネルギーの拡大
- 系統の強化
- 発電電の分離
- 電力システムの自由化

→このような温暖化対策には徹底抗戦

日本の原発と化石燃料をめぐる構

図



脱原発で温暖化に懐疑的な人々

- 「敵の敵は味方」のはずなのに「坊主憎けりゃ袈裟まで憎し」
- 「日本だけが愚かに温暖化対策で頑張っている」「日本はこれ以上頑張らなくてよい」という神話の伝播に加担

脱原発で温暖化に懐疑的な人々 (続き)

本来であれば敵対関係にあるはずの
「原発依存・化石燃料依存(省エネ・分散型拒否)」グループの巨大化・強化化
に結果的に貢献してしまっている

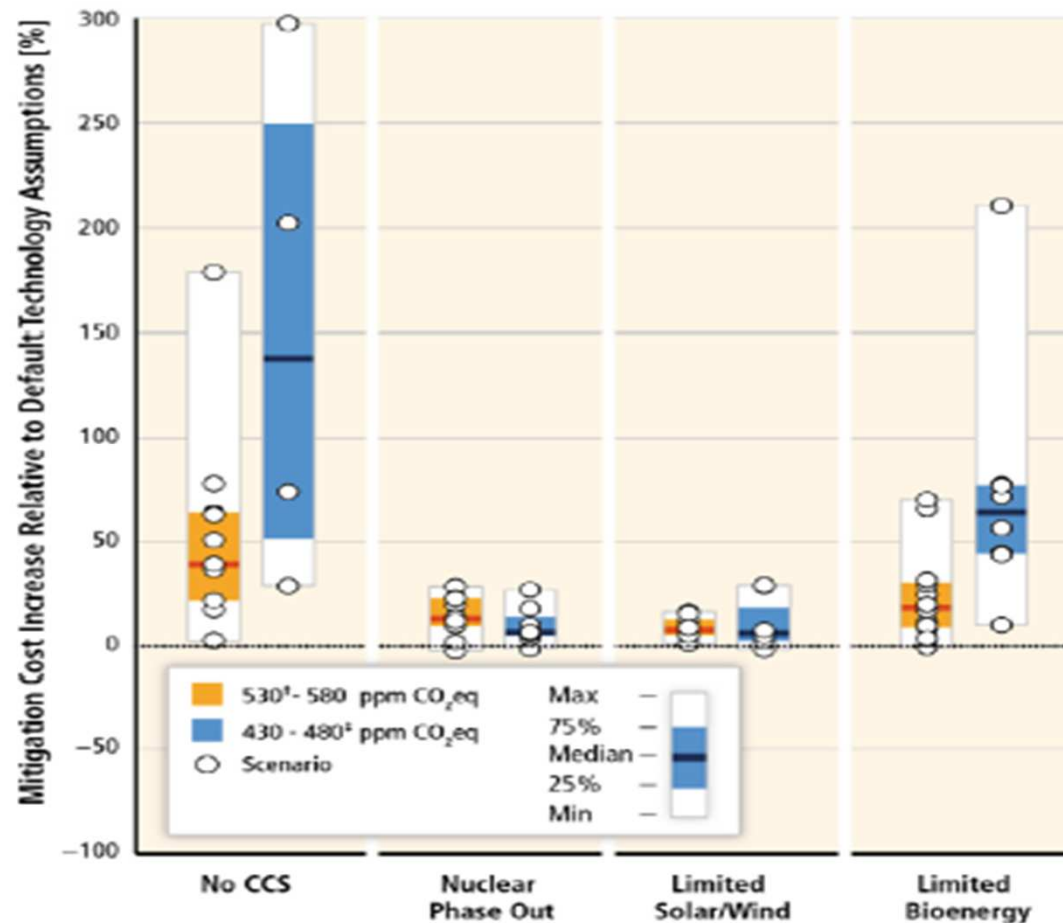
3. 脱原発と脱温暖化と経済の鼎立

IPCC第5次報告書のメッセージ

1. 2度目標達成の経済コストは大きくない
2. 原発のリスクは大きい
3. 原発なくとも2度目標達成の経済コストは大きく変わらない

原発なくとも2度目標達成コストは上がらない

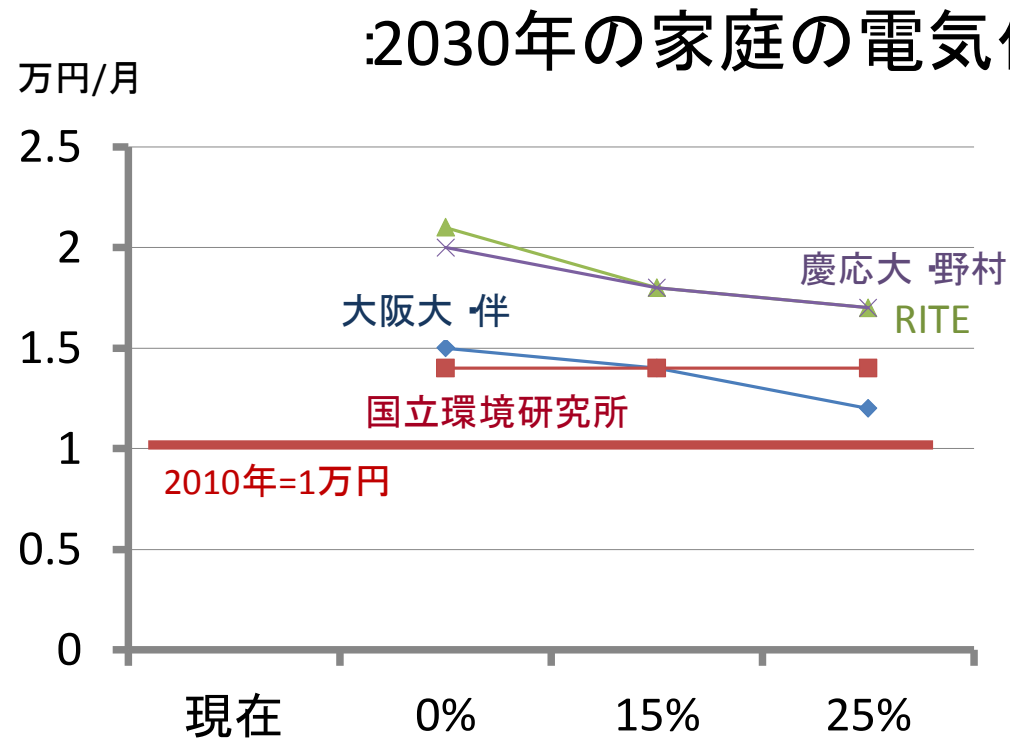
個別発電技術の有無/制限がある場合の対策コスト上昇率(%)



出所: IPCC AR5
WG3, TS, Fig.TS13

日本でも原発があってもなくても 電気代は大差がない

民主党政権時「国民的議論」3つの選択肢における電気代の差

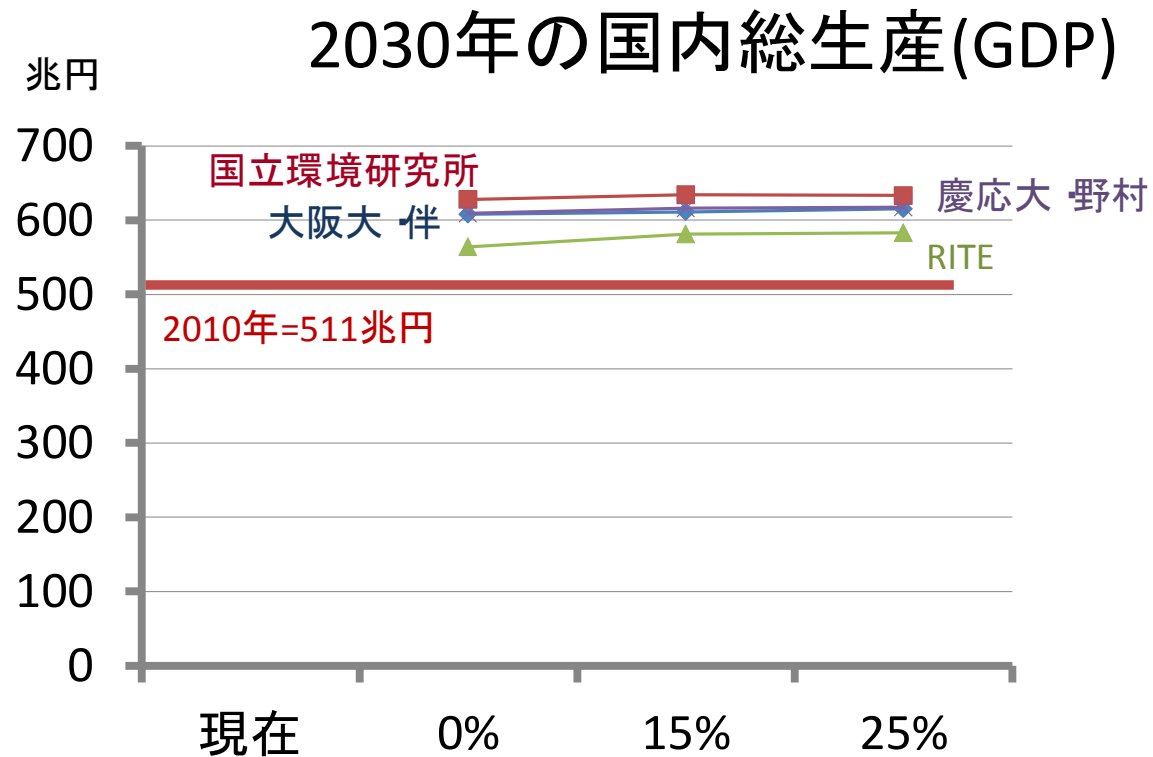


エネルギー 環境会議(2012)より作成

出所: 朴(2014)

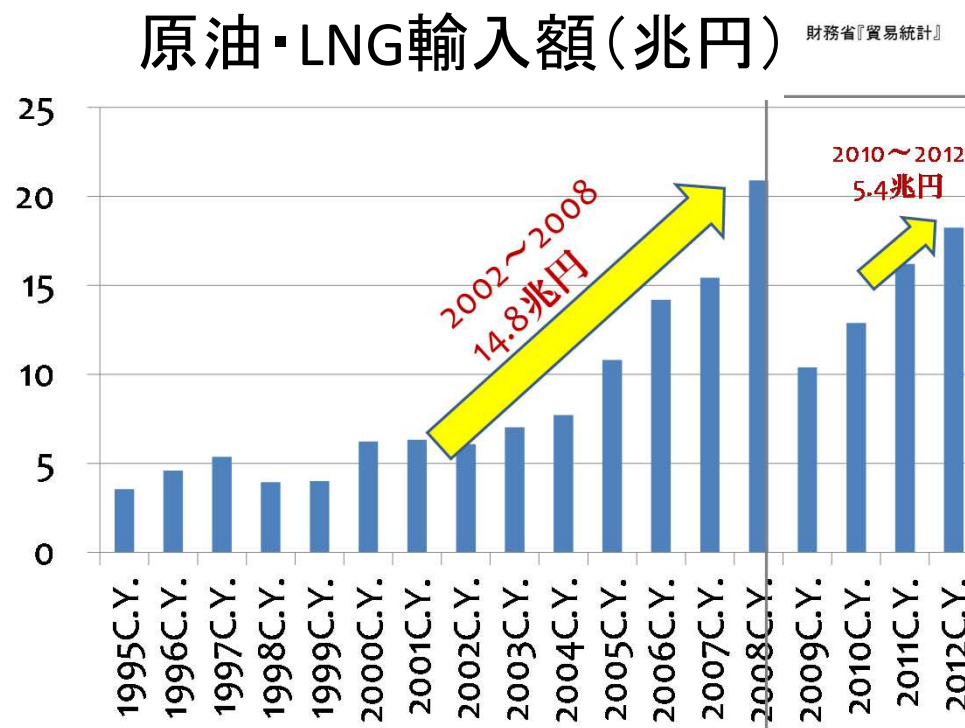
日本でも原発があってもなくても GDP影響は大差がない

民主党政権時「国民的議論」3つの選択肢におけるGDPの差



化石燃料輸入が3.6兆円増える？

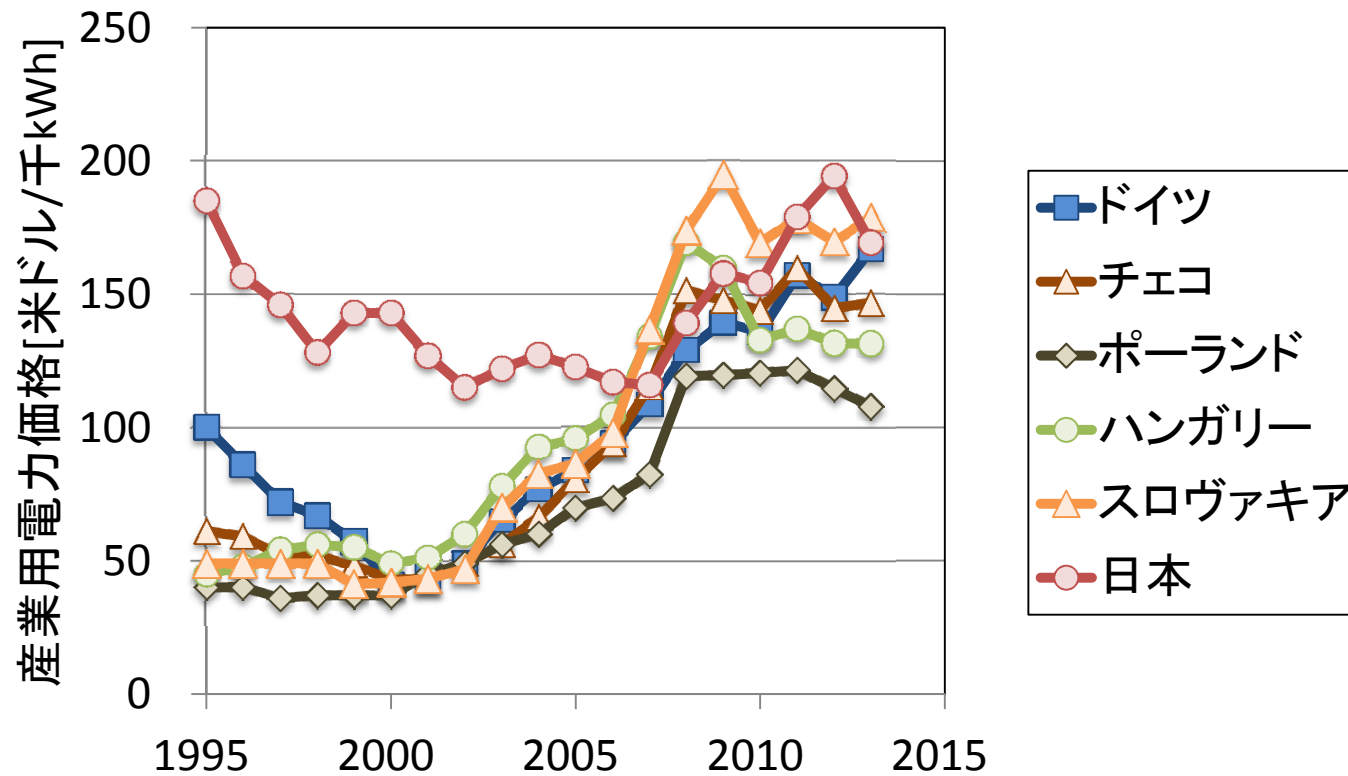
- 計算がおかしい。本当は1-1.6兆円（秋本2014, 自然エネルギー財団2014, 吉岡2014）
- 2002-2008年に14.8兆円増えても大きな問題にならなかった



出所: 朴(2014)

鼎立をめざすドイツの状況

ドイツと東欧の産業用電力価格

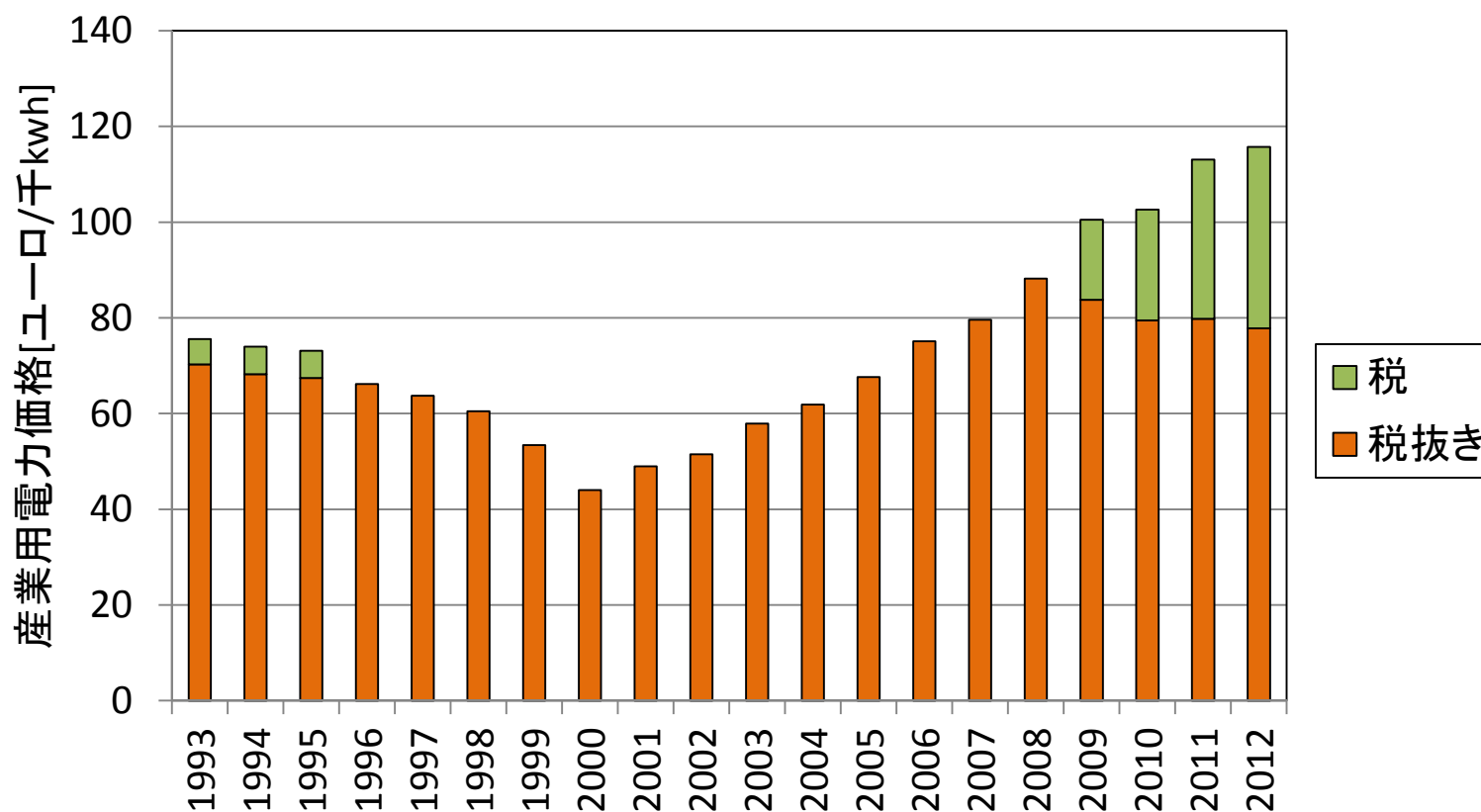


出所: IEA Prices and Taxes

<http://www.iea.org/statistics/topics/pricesandtaxes/>

鼎立をめざすドイツの状況(つづき)

ドイツの産業用電気料金と税



出所: IEA Prices and Taxes

<http://www.iea.org/statistics/topics/pricesandtaxes/>

「原発と温暖化と経済」の整理

1. 原発は、国全体としてのリスクやコストがベネフィットを大幅に上回る。それだけで原発は不要と言いうる
2. さらに、脱温暖化を可能とする代替発電技術は存在してコストも大差ない
3. 本来ならば「自然」に原発は淘汰される

原発推進と温暖化問題無視は同罪

1. 科学の無視
2. 経済の無視
3. 公平性・黄金律の無視

→結局は、負担や被害の他人への転嫁

4. 今後に向けて

悲観でも楽観でもなく

1. 弱体化すべき相手はでかくて強い
2. 省エネ・再生エネを広げるためには
総力戦が必要
3. 社会を論理的にデザインしようとする
ドイツなどの先行事例

参考文献

- 秋本真利(2014)「秋本まさとしブログ(2014年3月31日)」
<http://www5a.biglobe.ne.jp/~akimoto/report/index.html>
- 明日香壽川・朴勝俊・西村六善・諸富徹(2014)「ハンセン氏らの書簡への反論：原子力発電は気候変動問題への答えではない」
http://www.cneas.tohoku.ac.jp/labs/china/asuka/_src/2014/nuclear_power-climate_change_jp.pdf
- 明日香壽川(2014)「IPCC 第5次報告書第3作業部会の政策的含意 -各国削減目標の差異化および原子力発電の役割を中心に-」
http://www.cneas.tohoku.ac.jp/labs/china/asuka/_userdata/IPCC%20AR5%20WG3%20review26.pdf
- エネルギー・環境会議(2012)「革新的エネルギー・環境戦略」
<http://www.cas.go.jp/jp/seisaku/npu/policy09/>
- 原子力自然エネルギー財団(2014)「原発停止による3.6兆円の国富流出」試算の検証
http://jref.or.jp/images/pdf/20140313/JREF_Proposal_fuelcost_2014MAR13.pdf
- 朴勝俊(2014)「原発がなくても日本経済は大丈夫」
<http://iwj.co.jp/wj/open/archives/134449>
- 吉岡斉(2014)「焚増しコストの評価についてのメモ」総合資源エネルギー調査会原子力小委員会第2回会合, 平成26年7月1日, 参考資料4
http://www.meti.go.jp/committee/sougouenergy/denkijigyoku/genshiryoku/pdf/002_s04_00.pdf